

林業「災害危険」で指標

県森林研 研究員が成果発表

県森林研究所(美濃市曾代)は本年度の研究・成果発表会を関市若草通の市学習情報館で開き、専門研究員ら5人が山地災害のリスクを考慮した林業などについての研究成果を発表した。

県内の林業関係者ら約120人が発表を聞いた。白田寿生専門研究員は、林業

は山地災害の危険性にも配慮して実施すべきだと訴え、民家までの距離や、土砂の移動のしやすさから危険度を評価する「災害リスク4象限図」を紹介。「雨量や地形なども含め災害リスクの評価指標をリスト化し、事業実施前に確認すべき」と話した。

このほか、ヒノキのコン

県森林研究所の研究員らが研究成果を紹介した発表会。関市若草通、市学習情報館



テナ苗育成技術や、冠雪害の危険度マップなどについての成果報告があった。

(森嶋双葉)

岐阜県森林研究所ホームページ掲載期間：平成31年9月10日

この記事は岐阜新聞社の許可を得て使用しています。